

都道府県番号	45
都道府県名	宮崎県

【    】  
 \*重点をおいた観点にチェックすること

### 学校名及び規模

学校名	西都市立妻南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	2	3	1	19	26
児童数	102	83	105	104	77	89	2	562	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

一人一人の子どもに確かな学力を定着させるためのきめ細かな指導の在り方  
 ~繰り返し学習でつける 読む力 書く力 計算する力~

#### (2) 研究主題設定の趣旨

- ・ 「確かな学力」の育成のための個に応じた指導を一層充実させるための指導方法や指導体制の工夫改善  
 (理解や習熟の程度に応じた少人数指導や習熟度別指導、繰り返し指導等の指導方法の一層の工夫教科担任正答の指導体制の改善等)
- ・ 家庭学習等を一層充実させるための地域・家庭との連携

### 研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

#### (1) 研究推進体制の工夫

研究組織として、班別研究会と学年別研修会の2つを設置している。そして、班別研究会の中に、指導法研究班、基礎学力研究班、学習環境研究班の3つの班を組織している。学年別研修会は低学年部会、中学年部会、高学年部会に分かれており、学年間の研究の連携を図るため学年を越えて研究を進める学年部相互研に取り組んでいる。

#### (2) 研究の実際

##### ア 研究内容・方法

##### (ア) 授業改善について

##### 指導案形式

教科の特性を生かしながらも学力向上を意識した指導案となるように本校なりの工夫をした。

- ・ 基礎学力向上のポイントを指導案へ明確に位置付けて、単元を通して意識して指導できるようにした。
- ・ 学力向上のポイントを様々な視点から考えた。その中で共通実践として、国語では読みを高めるための音読の位置付け、算数では計算の習熟に重点を置いた指導過程の在り方を工夫し、授業の中で取り入れていくようにした。

##### (イ) 単元の指導計画と評価計画に関する手立て

- ・ 「学習状況の評価に関する手引き(平成14年12月 宮崎県教育委員会)P23」を参照し、観点別評価の視点については、手引きの「単元と評価規準のマトリックス」を参照し、整合性を図る。
- ・ 「努力を要する」状況と診断される児童への手立てについては、必要に応じて指導観や本時の中でも説明を入れる。

##### (ロ) 算数科における本校独自の手立ての位置付け

「数と計算」領域に限り、単元の最後に実施する診断テストの結果を基に「発展的な学習」「補充的な学習」の場を1時間設定した。

##### (ハ) 国語科・算数科における学力向上を意識した「学習の進め方」の設定

学力向上を意識した授業を共通して実践するために、国語科、算数科において、基本

的な学習の進め方を設定した。これらを日常の授業の中で実践、改善を加えている。

- (オ) 毎時間、国語と算数の授業の初めに「復習タイム」を位置付けることで、本時までの学習内容の確認・定着及び学力向上に必要な基礎学力を確実に定着させることとした。
- (カ) 学力向上のポイント等の研究を受け、授業の充実を図るために授業における「きめ細かな指導」一覧を作成し、それをもとに日常の授業を実践し、改善を図っている。

イ 基礎学力の定着について

- (ア) 当該学年で学習する内容の指導、及びレディネスの強化を図ることにより、基礎学力を身に付けさせるために「スキルの時間」を毎日設定した。
  - ・ 国語は「言語事項」、算数は「数と計算領域」を中心として基礎学力の向上をめざす。
- (イ) 前学年及び学期ごとに学習した漢字や「数と計算」領域のテストを実施することにより、学習内容の定着の度合いを把握し、指導方法や日常の指導の改善に生かしたり、その後の繰り返し指導での漢字力・計算力向上の資料としたりするため、漢字力・計算力テストの年間実施サイクルを作り、定期的実施した。

ウ 指導体制の工夫

- (ア) 教科担任制の実施
  - ・ ねらい

基礎基本確実な定着	教師の専門性を生かした魅力ある授業が創造できる。 創意工夫した授業作りによる興味関心の喚起できる。 担当教科に専念することで、教科の特性に応じた指導を行いやすく、教材研究の効率化が図られる。 長期的な計画に沿った学習が展開される。
個に応じた指導	複数の教師の目による児童の「よさ」の発見(多面的な児童理解) 「よさ」の発見により、一層個に応じた指導が工夫できる。 高学年児童においては、学担のみの授業と比べ、学習に対するマンネリ化が防げ、新鮮な気持ちで学習に取り組むことができる。
開かれた学校づくり	学級の枠を超えた協力指導体制が確立できる。 学級間交流が一層促進できる。
中学校の指導システムへの適応	中学校の教科担任制に対する段差が解消できる。

- ・ 本校での取り組みの方法

実施学年は、中学校との関係の深くなる高学年(5・6年)とし、学年の実態に応じた教員の配当を行う。

原則として、国語・道徳・特別活動・総合は学級担任が受け持つ。

朝は、子どもの健康の様子などを学担がつかむため、できるだけ1時間目は学担の授業を計画する。

学担と教科担との連携を図る方法を研究し、児童の様子や宿題等の調整を実施する。複数の教師の目で児童の「よさ」を最大限に引き出せるように学年で連携を図る。また、教師になれるのに時間がかかる児童に対しても、学担を含め、複数で対応することで徐々に児童理解を深める。

- (イ) 本校における少人数・習熟度指導の実施

1つの単元に入る前に、「レディネステスト」を実施し、その結果をもとに児童にコースを選択させる。本校の場合、1学級を2分割して、基礎・基本を確実に身に付けさせるコースを「ゆっくりコース」、より発展的な内容に取り組むコースを「すいすいコース」として設定した。

- ・ 学級通信や学級懇談を通して、保護者に習熟度別指導の趣旨について説明を行った。
- ・ 単元の途中で「ポストテスト」を実施し、その結果と児童の意思によりコース間の移動を行った。
- ・ コース別の学習では、問題の内容、数字の大きさ、量等をコースに合わせた指導を

行った。

年間指導計画を見通し、習熟度別指導を取り入れる単元、単なる学級2分割で少人数指導を行う単元、T1・T2でチームティーチングを行う単元というように、その単元の内容に応じて指導方法を工夫した。

(3) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

(1) 諸テストの結果

各種テストの結果から次のような結果が得られた。

(ア) 漢字力計算力テスト

・ 昨年度のデータ

	11月実施	2月実施
内容	当該学年の主な漢字と計算	11月実施時と同問題
漢字	76.4	90.5
計算	92.8	95.3

・ 今年度のデータ

	年度当初	1学期終了時	2学期初め	2学期終了時	3学期初め
内容	前学年の内容	1学期の学習内容	1学期の学習内容	2学期の学習内容	2学期の学習内容
漢字	73.6	77.3	80.5	80.2	84.7
計算	92.7	86.9	89.9	85.6	85.9

数字そのものを比較すると昨年度が良好に見える。しかし、今年度は問題数を増やし、回数を増やし、解答の範囲を広げたことで昨年度より点数では下がっているが、内容の理解は回を増すごとに確実に向上している。

(イ) 学力検査偏差値(NRT4月実施)

・ 昨年度のデータ

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語		47.3	46.3	48.5	48.2	51.2
算数		46.7	48.9	51.4	51.2	51.9

・ 今年度のデータ

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語		49.7	47.7	49.5	49.5	51.7
算数		52.8	51.5	52.0	52.5	51.8

ほとんどの学年で数値の向上が見られた。特に算数では顕著である。

(ウ) 基礎学力調査

・ 昨年度のデータ

	国語	社会	算数	理科
本校3年	76.7		75.4	
同 県平均	76.7		73.6	
本校5年	65.9	68.1	70.8	64.0
同 県平均	66.3	70.3	67.9	65.2

・ 今年度のデータ

	国語	社会	算数	理科
本校3年	72.6		78.9	
同 県平均	69.9		77.3	
本校5年	67.8	73.4	74.1	69.8
同 県平均	68.4	73.1	72.9	69.6

国語に関しては、数値的には満足いくものではないが、県平均と比較すると上昇傾向が見られる。また、算数に関しては3・5年どちらも県平均を上回り、数値的にも向上が見られた。5年生の社会及び理科についても県平均を上回り、良好な結果をおさめた。

## イ 今後の課題

児童一人一人の学びを保証する指導過程の工夫の確立を図る。  
主体的な学びを促す学び方の明確化とそれに応じた学習訓練の徹底を図る。  
全教育活動での「きめ細かな指導」を明確にし、類型化していく必要がある。

- ・ 授業時間におけるきめ細かな指導
- ・ 学習習慣についてのきめ細かな指導
- ・ 自宅学習についてのきめ細かな指導
- ・ 漢字力計算力育成のためのきめ細かな指導

研究内容を焦点化・重点化し、繰り返し取り組むことができるようにする。  
授業を側面的に支える研究内容の取組みに対するシステム化を行う。

### (4) 研究成果の普及の方策

市内妻中学校区の3校で組織しているレベルアップ西都学力向上協議会において、本校の取り組みを紹介し、互いの取り組みについて協議したり、授業研究会をしたりしている。  
児湯教育事務所の委嘱研究学校として、研究成果をまとめ、委嘱校発表会で紙上発表という形で本校の取り組みを発表した。  
児湯地区学力向上協議会に参加し、レポートを提出したり、協議会で本校の取組みについて説明したりした。  
保護者に対して、広報紙「フロンティアみなみ」を発行し、学力向上に関する学校の取り組みや、生活習慣等の向上に関する資料等を掲載している。これについては今後も継続的に発行していく。  
11月にオープンスクールとして全学級2時間の参観授業を日曜日を実施し、保護者をはじめ、祖父母や地域等に広報し、日常の授業を広く公開した。平成16年度についても同様な形でさらに参観者の範囲を広げた参観授業を計画する。  
本校はホームページを開設している。更新や内容の充実についてはさらに努力したい。  
平成16年度は、3年間の実績と成果を発表する研究公開を実施する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |   |  |  |                             |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校         | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |  |                             |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下              | <input type="checkbox"/> 7～12学級                |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 13～18学級            | <input checked="" type="checkbox"/> 19～24学級    |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 25学級以上             |  |  |                             |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導   | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導   |  |                             |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
| 【研究教科】               | <input checked="" type="checkbox"/> 国語      | <input type="checkbox"/> 社会                    | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
|                      | <input type="checkbox"/> 生活                 | <input type="checkbox"/> 音楽                    | <input type="checkbox"/> 図画工作          | <input type="checkbox"/> 家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 体育                 | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
|                      |   |  |  |                             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有       | <input type="checkbox"/> 無                     |  |                             |

### 【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・ 児童の学力向上に向けて、指導方法・指導体制の工夫等研究実践を深めているとともに、その成果について客観的なデータを基に検証が進められている。
- ・ 教育事務所、市町村が密接な連携を図りながら学力向上に取り組んでいる。
- ・ 校区内の中学校との連携も研究の視点に取り入れ、一貫した指導がなされている